



インターネットでの情報提供	
提供予定日	11月11日

平成23年11月10日(木)県政記者クラブ配布資料			
担当課	担当	担当者	電話番号
医療整備課	総合療育推進担当	奥田 直哉	直通 058-272-8279(内線 2628)
特別支援教育課	学校整備担当	和田 俊人	直通 058-272-8751(内線 3555)

## 県立希望が丘学園及び県立岐阜希望が丘特別支援学校の再整備について

手足の機能などに障がいのある肢体不自由児の治療や訓練を行う施設である希望が丘学園は、施設設備の老朽化が進む一方、施設を利用する子ども達の障がいの重度化や、発達障がい児の診療・相談の増加への対応が課題となっています。

また、岐阜希望が丘特別支援学校には、肢体不自由児のための専門校として、小学部から高等部までの一貫した教育を行うことが求められています。

そのため、両施設を同時かつ一体的に再整備することとし、今後、次のとおり新たな施設の整備を推進してまいりますので、お知らせします。

### 1 希望が丘学園及び岐阜希望が丘特別支援学校の再整備の考え方

#### (1) 新たな岐阜県地域医療再生計画に基づく「医療・福祉」連携の推進

- ・「医療・福祉の連携による小児医療・療育体制の整備」を推進するため、希望が丘学園の再整備により、医療、訓練、相談などの機能を拡充。
- ・別途整備を予定している県総合医療センター障がい児病棟と連携し、重度の障がいを持つ子ども達を支援する体制を構築

#### (2) 発達障がい児の早期療育体制の強化

- ・現在2～3か月の外来初診の待機期間が生じているなど、多くの利用がある発達障がい児のための診察室、訓練室、病室を新設し、早期の診断や発達支援のための体制を強化。

#### (3) 医療・福祉・教育が一体となった包括的な療育の提供

- ・特別支援学校に高等部を新設し、社会的自立に向けた支援を充実。
- ・屋内運動場や送迎バス乗降場の新設などの設備を充実。
- ・肢体不自由児教育の拠点校として専門性を向上させ、他の特別支援学校と連携。

#### 参考：現在の施設

岐阜県立希望が丘学園 [ 岐阜市鷺山向井 2563 番地の 57 ]

- ・沿革：昭和 49 年に下呂市から岐阜市の現在地に新築移転
- ・機能：病院、肢体不自由児施設、発達障害者支援センター
- ・利用者：入所約 30 名 (H18～H22 平均 27.6 名)、通園約 40 名 (H18～H22 平均 37.4 名)

岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校 [ 希望が丘学園の建物と合築 ]

- ・沿革：昭和 54 年設置
- ・機能：小学部、中学部
- ・利用者：児童生徒数約 55 名 (H18～H22 平均 53.4 名)  
うち学園入所児約 20 名 (H18～H22 平均 17.8 名)

## 2 新施設の規模等

- ・平成 23 年度末に閉校予定の岐阜市立伊奈波中学校跡地を活用し、施設の規模を拡大。

施設の規模（延床面積）	現行利用面積	再整備後
希望が丘学園	4,490 m <sup>2</sup>	約 6,700 m <sup>2</sup>
岐阜希望が丘特別支援学校	2,116 m <sup>2</sup>	約 6,800 m <sup>2</sup>

詳細は別添資料を参照

## 3 新施設の整備スケジュール（予定）

H24 年度	基本設計・実施設計
H25 年度	本体工事着工
H27 年度	主要施設(病院・病棟・特別支援学校校舎等)の竣工、準備、供用開始 現行施設解体
H28 年度	第二期工事(現行施設跡地の活用)
H29 年度	第二期工事分供用開始

### (別添資料)

- 資料 1 現在地(岐阜市鷺山向井 2563 番地)及び再整備予定地(岐阜市則武新屋敷 1816 番地)
- 資料 2 希望が丘学園及び岐阜希望が丘特別支援学校の再整備の考え方
- 資料 3 新旧施設の規模及び機能の比較
- 資料 4 希望が丘学園及び岐阜希望が丘特別支援学校の再整備に至る経緯及び今後の予定